

opti 2024
ファイナルレポート
 国際メガネ・オプティクストレンド専門見本市
 2024年1月12日～14日
 メッセ・ミュンヘン

2024年1月15日

**opti 2024 — オプティカルイヤーへの輝かしいキックオフとなる
 国際見本市**

Summary

- 出展社 28カ国から 390社、
来場者 70カ国から 21,500人
- 併催プログラムの
『opti SUSTAINABILITY HUB』、
『opti MYOPIA HUB』、今回初の
『opti TREND HUB』が好評



Facts & Data

会 期	2024年1月12日(金)～14日(日)
会 場	メッセ・ミュンヘン
主 催	GHM - Gesellschaft für Handwerksmessen mbH(手工業見本市会社)
規 模	(2023年度: 30,000 m ²)
出 展 社 数	28カ国から 390社 (2023年度: 28カ国から 307社)
来 場 者 数	70カ国から 21,500人 (2023年度: 68カ国から 15,470人)
主 な 出 展 品	メガネ部品・用品(フレーム、レンズ、チェーン、ストラップ、ケース、クリーニング・ケア用品、交換部品など)、サングラス、保護メガネ・ゴーグル、子供向けメガネ、コンタクト・オプティカル・太陽光保護レンズ、レンズ溶液、レーザー視力矯正技術、検眼・視力検査・眼科機器、補聴器、医師・メガネ製造業向け機器・用品、研磨機、光沢剤、メガネ店舗設備・備品(ショーウィンドウ用品、展示ケース、在庫管理システムなど)、顕微鏡、双眼鏡、暗視機器、コンサルティング、業界団体・媒体など
併 催 プ ロ グ ラ ム	opti SUSTAINABILITY HUB、opti MYOPIA HUB、opti TREND HUB など
出 展 日 本 企 業 (現法出展など含む)	(株)アサヒオプティカル、(株)シード、(株)シャルマン、(株)G.A.YELLOWS、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、タナカフォーサイト(株)、(株)トプコン、HOYA(株)、増永眼鏡(株)、MATSUDA、(株)メニコン、The LIGHT Co. Ltd. ほか
専 用 U R L	www.opti.de (英語/ドイツ語)

今年の opti は、年初にオプティクス業界関係者に活気をもたらした。21,500 人の来場者が、業界のあらゆる主役たちが集まる共通のプラットフォームを高く評価した。また、出展者の販売成功も、見本市のサポートプログラムを通じて、新しいトレンドやイノベーション、インスピレーションを新しい形式で紹介したことも、確かにこの素晴らしいコミュニティ精神に相応の貢献をした。

見本市の 3 日間、すべての会場で体感した熱狂的な雰囲気は、昨年来の opti チーム、出展者、業界関係者の緊密な協力の賜物であり、それは見本市参加者からの数多くの発言から窺える。言うまでもなく、来場者数は成功を反映したものとなっている。特に、業界からの来場者数は 21,500 人で、そのうちの 60% が意思決定者であった。70 カ国からの来場者は、opti の多彩なラインナップに魅了されただけでなく、この意欲的な雰囲気の中で、知識、販売、対話について数多くの革新的な方式を学んだ。来場者は、次のとおり opti を非常に高く評価している。opti 2024 について、来場者全体の 93.4% が雰囲気を「良い」または「非常に良い」と評価し、92.6% が総合的に「良い」または「非常に良い」と評価。そして、82.4% が見本市終了後に発注や委託の商談を進めている。



28 カ国から出展した企業およそ 390 社は、機械製造、ショップフィッティング、コンタクトレンズや眼鏡レンズ、眼鏡フレームのメーカーなど、眼科光学分野における業界のトップブランドから若手の独立系デザイナーまで、サプライチェーン全体を代表していた。そして、出展者からの評価も素晴らしく、全出展者の 94.5% が、自社ブースへの来場者の質を製品への関心度の観点から「良い」または「非常に良い」と評価し、そのうちの 91% が opti 2024 を総合的に「良い」または「非常に良い」と評価した。

opti のエキシビジョン・ダイレクター Cathleen Kabashi は、「opti は成功を続けている。多くの来場者の声と出展者からのフィードバックから、この見本市のコンセプトが間違いなく正しいこと、そして 1 月に開催することが適切であることを確認した。昨年 1 年間にわたる見本市関係者全員の緊密な協働と練り上げた共同コンセプトが、このイベントの成功には不可欠であった。opti のコミュニティがこの見本市をいかに愛し、信じているか、それを窺い知ることができた。素晴らしいことだ。このコミュニティの感性が成功を導いたものと確信する」と語る。

opti を主催する GHM Gesellschaft für Handwerksmessen mbH の最高経営責任者 Dieter Dohr は、「感激している。信じられないような雰囲気で、業界の皆さんの喜びが伝わってきた。来場者は皆、自分たちの見本市を再度体験したいと望んでいた。それが正に現実のものとなった。opti は、ドイツ、オーストリア、スイスの業界にとって、製品群を設計する際の羅針盤として機能し、会計年度全体の方向性を提示している。この 1 月、opti は、業界との対話、ラウンドテーブル、意見聴取、共同開発を通じて、この 1 年間に蒔いた種から成功の実を刈り取った」と、意を強めた。

見本市参加者全員から非常に高い評価

業界団体 SPECTARIS のコンシューマーオプティクス委員長 Mirjam Rösch 氏は、「過去 12 カ月にわたる GHM の多大な取り組みと戦略的検討は、あらゆる場面で効果を発揮し、完全に実を結んだ。たくさんのお会いの場もある。広い通路はすばらしく、更なる能力向上に関心のある人は、様々なテーマのハブで幅広いトレーニング・プログラムを利用することもできる。そして、忘れてはならないことは、その素晴らしい雰囲気だ。それが、会場の隅々まで広がって、私たち全員に多くの勇気を与えてくれた」と述べている。

中央眼鏡・検眼士協会(ZVA)の副会長 Kai Jaeger 氏は、「Opti 2024 は、来場者の高い頻度と非常に良い雰囲気に感銘を受けた。ZVA が運営する opti CAFÉ では、専門職の開拓や職業訓練、継続教育への関心が高まっていること実感させられる非常に有益なディスカッションが交わされていた。また、ハブ・ディスカッションへ参加すれば、眼鏡技師や検眼士の希望について新たな洞察も得られる」と、非常に前向きに言い切った。

FUNK Eyewear 社のオーナー Dieter Funk 氏は、どこの分野の出展者も皆、opti 2024 について全体的に非常に好意的であるとして、「opti は再び絶対的な宝珠に成長した。卓越した業界の集まりとなった。2025 年にまたここに戻ってくる」と語る。

Silhouette 社のマネージングディレクター Thomas Smits 氏など、業界のマーケットリーダーたちも同様に、「今年の opti にはうれしい驚きを感じている。ここ数日は、私たちの期待に応えてくれただけでなく、それを上回っている。見本市の意欲的な雰囲気は、来年更に集中的な議論を行うための基礎となる」と語る。

眼科用レンズ分野でも、出展者からのフィードバックは非常に好意的であった。例えば、Rodenstock 社の DACH(Germany, Austria, Switzerland)ゼネラルマネージャー Thomas Pfanner 氏は、「私たちは opti に非常に満足している。私たちは顧客との個人的な接触を非常に重要視しており、会場での多くの笑顔から、双方がここでの出会いを楽しんでいることが伝わってきた。当社にとって、今回の見本市は販売面でも雰囲気面でも大成功であった。次回を楽しみにしている」と述べる。

opti に参加したコンタクトレンズメーカーの雰囲気は素晴らしいものであった。CooperVision 社の DACH ゼネラルマネージャー Johannes Zupfer 氏は、「私たちは非常に満足している。多くの来場者の前で、とりわけ近視をテーマとした多数の良い議論があり、その方向性を更に市場に浸透させることが

できた。そして、当社がコンタクトレンズのリーディングカンパニーとしての地位を更に高めることができたことを嬉しく思う」と述べた。

1 月開催は最良のタイミング

繰り返し言及されたトピックのひとつは、見本市の 1 月開催は業界にとって都合の良いタイミングであることだ。例えば、Aalen 大学の視覚科学とビジネス(検眼)のパートタイム修士課程責



任者の Anna Nagl 教授は、「opti の最大の魅力のひとつは、1 月という開催日にある。opti が始まって以来 25 年間、この見本市の開催は、フレーム、レンズ、コンタクトレンズ、検眼などの眼鏡業界における 1 年のキックオフとなっている」と述べている。

エキサイティングなプログラム

産業界および眼科光学分野の多数のパートナー共に、#WEAREopti の精神に基づいて開発され、そして業界関連のトピックに関する入念に企画されたイベントやプレゼンテーション、また授賞式によって、更にはパネル展示を通して、専門家と討議することにもよって、この見本市への来場者は、トレンドやテクノロジーを発見し、自らの課題とソリューションを取得することができた。

opti のエキシビション・ダイレクター Cathleen Kabashi は、「『opti SUSTAINABILITY HUB』、『opti MYOPIA HUB』、そして今回初めて実施された opti INNOVATION AREA の新しい『opti TREND HUB』のいずれにおいても、より多くの来場者が訪れた。このことは、我々の支援プログラムのコンセプトがトレンドに沿って的確であること、そして、これからもこの方向が継続することを示している」と語った。また、来場者調査でも非常に高い評価を得ている。来場者の 85%が、『opti TREND HUB』のトピックについて「自分たちに関連性がある、または非常に関連性が高い」と評価。同様に多くの回答者が、『opti MYOPIA HUB』について「興味深い、または非常に興味深い」と肯定的に評価している。

『opti SUSTAINABILITY AWARD』は、Augenblick Brillen Kontaktlinsen GmbH の Andreas Schmidt 氏に贈られ、その授賞に伴うプレゼンテーションは非常に好評であった。同社は、地域社会と Augenblick チーム（眼鏡店で構成するチーム）の両方に社会的側面を考慮しつつ、エコロジカル・フットプリントを可能な限り小さくすることを目標に掲げている。その方策として、LED や人感センサーへの切り替え、水道直結式クローズドシステムへの置き換えなどを挙げている。

opti サポートプログラムのもうひとつのハイライトは、『第 3 回 opti BOX AWARD』の授与で、デンマークのブランド「SKANS – EYEWEAR WITH IMPACT」に贈られた。この賞は、革新性、デザイン性、機能性、持続可能性において優れた若手デザイナーを表彰するものである。ブランド創設者の Johanna Skans 氏は、サステナビリティをビジネスモデルの基盤としていて、「SKANS では、私たちが下す全ての決定はサステナブルというレンズを通して行われている。その点からも、opti への出展は非常に良い経験となった。『opti BOX AWARD』の受賞が、より多くの人にとってサステナビリティへの取り組みに参加するきっかけとなることを願っている」と語っている。

次回 opti 2025 は、2025 年 1 月 31 日から 2 月 2 日までドイツ・ミュンヘンで開催の予定。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.opti.de まで

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)